三原市長
山本清治氏

㈱三原青年会議所
理事長
須﨑裕之

2001年みはら四者座談会

どうなるみはら！ どうするみはら！

「地方分権」が叫ばれて久しい中、21世紀を迎えました。昨秋、広島県が県内の市町村の合併パターンを発表して以来、各市町村で合併に関する論議が高まりをみせています。今、まちは少しずつ「自分たちのまちのことは、自分たちの責任で、自分たちで決めていこう」とする『真の地方の時代』に向けて歩み始めました。

私たちのまち「みはら」はどうでしょう。このような大きな社会システムの変化に対応して、いち早く自己再編できる能力を持たなければ、今や社会から置き去りにされてしまうような気さえします。

そこでこの度、三原市長、三原市議会議長、三原商工会議所会頭、三原ＪＣ理事長四者の座談会を行い、我がまち「みはら」について熱く語っていただきました。

三原商工会議所会頭
勝村篤博氏

三原市議会議長
宮原幸司氏

「コラボレーションシティ21」&「第４次長期総合計画」

理事長　（社）三原青年会議所では、昨年、新ビジョン「コラボレーションシティ21」を策定しました。このビジョンは、「共生共創社会」の実現に向けて「愛・夢・絆」をキーワードに①市民参加・市民協働によるまちづくり　②情報公開による開かれたまちづくり　③効率よい行政への転換について提言をしたものです。そこで、三原市がこのたび策定されました「第４次長期総合計画」についてお聞かせください。

市　長　三原市の策定した「第４次長期総合計画」では、平成13年度から平成22年度までの三原市の10年間を見据え、「瀬戸内海に臨む快適な暮らし都市・みはら」を目指す都市像としています。一般市民の方２名にも策定のために参加していただきました。

（社）三原青年会議所においても昨年新ビジョンを発表され、「住民と行政がパートナーシップを結び、協働によるまちづくり」を提唱されておられます。「第４次長期総合計画」においても協働によるまちづくりを基本構想にうたっており、共通する部分も多くあると思います。

議　長　市民参加には、種々のスタイルがあり、住民にはすぐれた才能や技術を持った人が多く、地域社会はまさに知恵の宝庫でもあります。この有能な人たちを行政サービスの単なる消費者とするのではなく、むしろ生産者として行政の協力者、支援者としてまちづくりに積極的に参画してもらうべきです。

どうなる合併!

理事長　昨秋、広島県から県内各市町村の合併モデルパターンが発表され、三原市は「本郷町・久井町」と合併するケースと、それに「瀬戸田町」が加わり１市３町で合併する２つのパターンが示されました。（社）三原青年会議所は、「合併」をまちづくりの目的ではなく手段として考え、住民主導による合併の推進をしていますが、それぞれのお立場で市町村合併に今後どのように取り組まれていく予定でしょうか。

市　長　近隣市町村には合併に向けての調査・研究機関を立ち上げているところもあり、三原市においても広域行政調査特別委員会等で広島県及び自治省から担当者を招き、勉強会を行っています。まずは住民に対して、合併に関する情報発信を行う事が行政の立場として必要であると考えます。

議　長　議会としても合併構想にむけて近隣市町村と充分なコンセンサスを図っていきたいと思っています。例えば委員会で合併に関する勉強会等を実施し、各議員間での意志統一を図ると同時に、今後どのような展開でいくか真剣に考えていかなければなりません。

（社）三原青年会議所は早くから合併問題に取り組んでおられ、このたび立ち上げられます「広域まちづくり研究会」にも期待しております。是非今後も、住民に対する合併への気運の醸成や提言等を積極的に行っていただきたいと思います。

会　頭　県の第１の合併パターンは、「三原市、本郷町、久井町」の１市２町による合併でありましたが、経済の結びつきの太さ等を考えると「瀬戸田町」を含めた１市３町が妥当と考えます。経済圏からいうと瀬戸田町は完全に三原に含まれますよ。商工会議所としましても、本郷・久井・瀬戸田の商工会と会合を重ね、「経済界はひとつ」を合言葉に、連絡を密にしながら合併のメリット・デメリットを含めて話し合って行きたいと思っています。

理事長　私たち（社）三原青年会議所は、合併について「久井町・瀬戸田町・本郷町・三原市」の住民がそれぞれの立場を越えて自由に議論できるような場づくりが必要ではないかと考え、来る２月23日（金）に「広域まちづくり研究会（仮称）」を開催します。皆様にも是非一市民という立場で積極的に参加して、議論していただきたいと思っています。

広島空港と三原・瀬戸田架橋

理事長　みはら広域圏は、広島空港を核に、中四国地域の拠点都市としての機能を果たさなければならないと思います。そのためにも「三原・瀬戸田架橋」は大変重要な役割を担うと考えておりますが、架橋を含めて、空港を核としたみはらのまちづくりについてのお考えをお聞かせください。

市　長　中国地方で国土交通省が管理しているものは広島空港だけです。１月には滑走路3000メートル化が実現し、中国地方のハブ空港の役割を担うことが期待されます。三原・瀬戸田架橋が実現すれば、しまなみ海道はあるものの、四国からのアクセスは大幅に改善されます。一方で、架橋建設事業には膨大な建設費もかかることも事実であり、三原市といたしましても、将来を睨めば必ず必要なものであり、広島県に対して引き続き実現に向けての要請を行っていきたいと思っています。

議　長　三原・瀬戸田架橋については、その事業主体をどこにおくのかという問題があるでしょう。経済的には本四公団では無理があると考えますので、空港までのアクセス道路という観点から国土交通省が適任ではないかと思うのです。先ほどの合併問題と関連して１市３町の合併を実現するためにも、三原・瀬戸田架橋はぜひとも実現していただきたいと考えております。

キーワードは「市民参加」

理事長　（社）三原青年会議所では、「市民」と「行政」による「協働のまちづくり」を推進しております。すでに「市民参加条例」等を施行し、市政に市民が参加するシステムが確立されている自治体があると聞いています。三原市としては市民参加についてどのようにお考えでしょうか。

市　長　三原市も情報公開条例を成立させました。市民に情報を提供する事によって、市民とのつながりを強くすることが必要と考えております。皆様にも是非一市民という立場で積極的に参加して、議論していただきたいと思っています。

今回の座談会では、みはらのまちづくりについて、合併問題を中心に、三原市の教育問題、福祉問題、基盤整備についての問題等、三原市の立場、議会の立場、経済界の立場から、広くご意見をお伺いいたしました。

「真の地方の時代」を確立するためのまちづくりは、いわゆる「住民参加・住民自治」が地域の中でどれだけ成熟していけるのか、そして単なる行政批判や要求だけでなく、住民自身がどのような役割を果たしていくか、まちづくりについて住民が独自でどれだけ建設的な働きかけができるか否かがポイントになると考えます。

私たち（社）三原青年会議所は、「広域まちづくり研究会（仮称）」等を開催することによって、まちづくりについて住民が意見を出し合い、議論していく場づくりを積極的に行っていきたいと思います。そうすることによって、住民主導によるまちづくりが実現できるはずです。あまりにも周りを気にしすぎて、合併に関して積極的に立ち上がるのは得策ではないとか、合併をするかしないかの選択肢の意思決定を先送りするとかというのは、この期に及んではないと考えます。

今、地方に問われているのは、まちの自己再編能力です。社会システムの変化に対応して柔軟に組織や制度のあり方を自己変革できる能力が、果たしてそのまちに備わっているかどうかということを改めて考えてみなくてはなりません。

本誌の「やっさもっさ」は、㈱三原青年会議所の自主財源とここに掲載の企業のご協力を得て発行しています。

・iSグループ　アイフルホーム三原店
・赤谷木材㈱　朝生居酒屋あや
・池本興業㈱　あまの鍼灸接骨院
・糸崎木材㈱　浅田公認会計士事務所
・上田製版印刷所　上田正樹税理士事務所
・ウラベゴルフミえすとぴあ　㈲桜南食品
・エヌワイグループ　大下建設㈱
・大成土地家屋調査士事務所　旭新水大藤酒造㈱
・オギロパン　小野税理士事務所
・カイ・サンパーク　柏村印刷㈱
・勝村木材商産　勝原不動産
・カネダニ衣料　神本ワークビュロー
・かもめしんきん商店　㈱カメラのファースト
・キヤマ機械　共立メンテナンス
・キヨーデン　共和不動産㈱
・グラフィック機材　啓陽日日新聞社
・芸備燃料　広愛産業㈱
・広島共栄不動産㈱　㈱晃栄
・河城石材店　小泉病院
・小島洋製パン　小原家具㈱
・さこだモーターズ　澤井製作所
・三陽環境管理㈱　三陽建設㈱
・山陽システムインターナショナル㈱　山陽ビル㈱
・柴田産業㈱　柴田婦人科
・中国電設工業㈱　中多薬局
・中央地所㈱　辺製鉄工所
・田尾石油㈱　田中運輸㈱
・ダイフク興産㈱　同印機材㈱
・同建科医院　㈲内不動産
・㈱第一建設　瀬戸内ミルク工房
・ソナリア&ベッド館　大組㈱
・大日ヘルスショップ　㈲ダイヤ石油
・㈱三原給油所　高山ペットショップ
・㈲タチバナ　㈱田中組
・㈲チル　㈱鶴和工業
・㈱ミス　㈲鈴木真砂
・砂田歯科医院　㈲ムラセ
・㈲ムラセ　㈱和工業
・㈲ムラセ　㈱和工業
・㈲ムラセ　㈱和工業